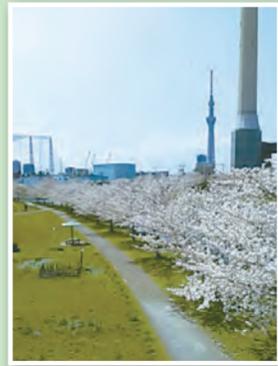


つながる すみだ人

私の好きな すみだ

今月の1枚
【旧中川水辺公園】
【撮影】小木曾清三さん



本コーナーへの写真を随時募集しています。詳細は今号2面をご覧ください。
【問合せ】広報広聴担当 ☎5608-6223



石川順一さん(東向島在住)

すみだを愛し、すみだで活躍する人をリレー形式で紹介する「つながる すみだ人」。お話を伺った方に次の方を紹介していただき、すみだを愛する人をつないでいきます。第60回は、古書がずらりと並ぶ「LE PETIT PARISIEN」(東向島2-14-12)を運営する石川順一さんです。

Q. すみだでどのような活動をしていますか？

なかなか言葉で言い表しにくいのですが、あえて言うと「オープンな書齋」の運営です。ここには、私が学生時代から収集してきた古書が並んでいます。一番古い本は1400年代後半のもの(左の写真で持っている本)。ぜひ手に取って、ページをめくったり、観察したりしてください。一部を除き、本の販売はしていません。飲物は希望があれば提供していますが、カフェでもありません。だから

「書齋」と呼んでいます。

もともと読み物としての本が好きで、次第に本の印刷・装丁や、その背景にある歴史、そして本の所有者を示す役割を持つ蔵書票へと興味が広がっていき、現在も研究中です。来館者にはその方の関心に応じてご説明しています。現在私が一番関心を持っているのは蔵書票ですが、来館者にはそれぞれの楽しみ方で過ごしてほしいです。

Q. 現在の活動を始めたきっかけは何ですか？

「これまで個人的に収集してきた古書を、ほかの方たちにも見ていただきたい。自分で楽しむだけではもったいない。」この想いが一番のきっかけです。来館者の中には、劣化を恐れて素手で本を触るのをためらう方がいますが、劣化してもいいんです。本はモノなので、もともと劣化するもの。「どんな表紙？どんな紙？厚みは？」眺めるだけでなく実際に手に取ってもらい、その人の記憶に残ることの方が重要だと思っています。これは美術館などの組織ではなかなか難しく、個人だからできることではないかと思います。

現在私たちが「本」と認識するものは、西洋が起源です。そして、本の内側には所有者を示す蔵書票が貼られていました。本は一部の例外を除き、18世紀頃まで貴族などしか持てない高価なもの。まさに資産だったため、当時の蔵書票は「所有権を誇示する」ものでもあったと考えています。

現代の蔵書票はデザイン性が高く、美術の側面から注目されることが多いですが、本来は何かはあまり知られていません。それがときどきもどかしく、デザインの美しさの前提にある蔵書票の歴史なども知ってもらいたいなと思って、説明にはつい力が入ります。

Q. 石川さんは、すみだのどんなところが好きですか？

実はすみだには縁もゆかりもありませんが、拠点をここに決める過程で、すみだの歴史や文化に関心があったことに気付きました。例えば、永井荷風や吉行淳之介の描いた世界です。

あとは、日本ならではの四季を感じられる場所として、向島百花園が好きですね。四季それぞれの魅力があり、新緑はもちろんですが、冬枯れの趣ある様子も素敵だと思います。



▶どちらも蔵書票です。左は名前はなく、紋章のみが入っています。紋章は1人ずつ異なるので、個人の所有であることを証明するのに役立ちました。右はエリザベス二世の子どもの時代のものです。



◀「LE PETIT PARISIEN」は、水・木曜日を除く午後1時～6時に開いています(臨時休業あり)。夜は不定休なので、事前に電話でお問い合わせください(☎3612-9961)。

次回登場してくださるのは・・・

和装を仕立てる「仕立直や」を営みながら、和装の販売やワークショップなどを行う「ワモノと雑貨キセカエ」を運営する坂田直さんです。
【問合せ】広報広聴担当 ☎5608-6223



夢

すみだ北斎美術館入館者100万人達成記念「勝手に! 北斎賞」

墨田区長

山本 亨

3月31日、すみだ北斎美術館入館者100万人達成記念「勝手に! 北斎賞」の表彰式が開催されました。すみだ北斎美術館は、開館7年目である昨年6月に入館者100万人を達成しました。地域の皆さんに支えられ、国内外から多くの方が来館され、大変嬉しく思います。

感謝を込めた今回の表彰では、功労賞として、北斎祭り、みんな北斎プロジェクト、フウガドールすみだのユニホーム、綴プロジェクトを選出しました。また、特別賞として、本区出身のデザイナーである高橋正実さん、北斎作品をパッケージデザインに採用した「堅あげポテト」(カルビー株式会社)を選出しました。

そして、「葛飾北斎はかせ」として知られる

目黒龍一郎さんと、北斎作品を立体キューブで制作するキューブアーティストの黒田創さんには、未来賞を授与しました。中学生と小学生の才能溢れるお二人には、「令和の北斎」をめざし、生涯を通してチャレンジを続けていただくことを大いに期待するとともに、これからも応援を続けていきます。

今年は、北斎の代表作で知名度も高く世界の芸術家に影響を与えた「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」が新千円札の裏面に用いられ、来年の大河ドラマでは、江戸時代の版元として有名な蔦屋重三郎が主人公になるなど、北斎はますます注目を集めることになります。

これからも、多くの区民の皆さんに、そして

世界中の北斎ファンに愛され続ける美術館をめざし、地域の皆さんとともに北斎の魅力発信に取り組んでいきますので、引き続きご支援をお願いします。



未来賞を受賞した目黒さん(中左)と黒田さん(右)、澁谷館長(中右)と

